

インターネットの歴史

1960年代: インターネットの起源

- 1969年: 米国国防総省の高等研究計画局 (ARPA) が、軍事目的でコンピュータネットワーク「ARPANET」の運用を開始。これがインターネットの原型とされています。

1970年代: ネットワークの発展

- 1973年: ARPANETが国際接続を開始。
- 1974年: 日本でも東京大学と京都大学を結ぶ「N-1ネットワーク」が運用を開始。

1980年代: TCP/IPの標準化と学術利用の拡大

- 1982年: ARPANETの通信プロトコルとして、現在のインターネットの基盤となる「TCP/IP」の使用が決定。
- 1984年: 日本でも東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学の3大学を結ぶ「JUNET」の実験が開始される。

1990年代: WWWとブラウザの時代、一般普及の始まり

- 1991年: ティム・バーナーズ＝リーが、後のWWW (World Wide Web) の基盤となるハイパーテキストシステムを開発。世界初のウェブサイトと、最初のブラウザ「WorldWideWeb」が公開される。
- 1992年: 日本初の商用インターネットサービスプロバイダー (ISP) である「IIJ」が設立され、サービスを開始。
- 1993年: 画像を表示できる初のグラフィカルブラウザ「Mosaic」が登場。これが一般ユーザーへの普及を大きく加速させる。
- 1994年: Mosaicの開発チームが「Netscape Navigator」をリリース。これが当時のブラウザ市場で圧倒的なシェアを獲得する。
- 1995年: マイクロソフトがインターネット接続機能を搭載したOS「Windows 95」を発売。OSに同梱された「Internet Explorer (IE)」がシェアを伸ばし始め、Netscapeとの「第一次ブラウザ戦争」が勃発。
- 1996年: ラリー・ペイジとセルゲイ・ブリンが、後のGoogle検索エンジンの原型となる「BackRub」を開発。
- 1998年: Googleが法人化され、「Google検索」のサービスを開始。リンクの重要度を考慮した独自のアルゴリズム「PageRank」により、高い検索精度を実現する。
- 1999年: NTTドコモが携帯電話でインターネットを利用できる「iモード」を開始。

2000年代:ブロードバンド化とSNSの台頭

- 2000年:Googleが日本語検索に対応。
- 2001年:Yahoo! JAPANがGoogleの検索エンジンを採用。これにより、Googleの日本での存在感が一気に高まる。
- 2004年:IEの寡占状態に対抗するオープンソースのブラウザ「**Mozilla Firefox**」が登場。
- 2007年:YouTubeの日本語版サービスが開始される。
- 2008年:Googleが新たなブラウザ「Google Chrome」をリリース。「第二次ブラウザ戦争」が勃発する。
- 2008年:Facebook、TwitterなどのSNSが世界的に広がりを見せる。

2010年代:モバイルシフトと5Gの時代へ

- 2010年:日本国内で、モバイル端末からのインターネット利用者数がパソコンからの接続者数を上回る。
- 2010年代半ば:ChromeがIEを抜いて世界シェアトップのブラウザとなる。
- 2015年:マイクロソフトがWindows 10とともに新しいブラウザ「**Microsoft Edge**」をリリース。

2020年代:生成AI、メタバース、Web3の時代

- 2020年:世界的なパンデミックにより、リモートワークやオンライン学習が急速に普及。ZoomやMicrosoft Teamsなどのオンラインコミュニケーションツールが、人々の生活と仕事の基盤として定着する。本格的な5Gサービスも開始され、高速・大容量通信が普及する。
- 2021年:Facebookが社名を「Meta」に変更し、メタバースへの注力を宣言。VR(仮想現実)やAR(拡張現実)技術を活用した仮想空間での活動が注目を集める。また、NFT(非代替性トークン)が流行し、Web3(分散型ウェブ)の概念が広く知られるようになる。
- 2022年:ChatGPT(OpenAI)の登場をきっかけに、生成AIが世界的に爆発的なブームとなる。文章生成だけでなく、画像生成AIも登場し、コンテンツ作成や情報収集のあり方を根本から変え始めている。
- 2023年以降:生成AIは検索エンジンや各種アプリケーションに統合され、よりパーソナライズされた情報提供やタスクの自動化が進む。AI倫理や著作権に関する議論も活発化している。